

官刻  
孝義錄

陸奥四

十五

136  
50  
197





官刻  
孝義錄

陸奥四

十五

136  
50  
197

東 京 圖 書 館

五 の 冊	<del>一 三 六</del> 號	<del>五 八</del> 架	<del>三 六 七</del> 函	和 書 門 傳 記 類
-------------	-------------------------------	-------------------------	-------------------------------	----------------------------



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用



由緒

孝義録卷之十五

陸奥國四

孝行著孫玄清

明治九年文部省



孫玄清ハ仙臺の城下南町のものなり母ハ二十四  
年若小う世父ハ自叙といひて十年若小う  
父乃母のいほせしむと愛敬の事こと  
ついでして御もなれりる答とあるは父乃隠家と  
こゝにもあるこの事いつのよ七八回もそのも満  
を杖とらり兼履とらり一日の夜度といふるも  
從來の送りし人とおと事貴人を教ぬる累子

孝義録卷十五





らよと下給ふともあつたりとも胡夕乃食を  
つらとて免個味いもらり父の好める物と撥と  
又いその時いふらしてそまへる乃食事れはあへ  
よも好める物なりとて心と教め紀外もまつら  
授きとてあへくの物撥してその給つらとまら父  
のまらりの給つらとてそのまらとて次の回も退  
らとて父の熱く睡るどりつらして後よみせり父  
の糸よ出る事あまらつらとて送るその給つらとまら  
てい涼敷よ及ぶとていふらもいふらとて取用ありて外  
にあららとていふらとて父よそのむらとてまら

らり書状来るらとて父の旨とてけく言ふ或て  
人乃食意よよらられはそ席よあまら又調達の  
思あつてもくつらとて言はとてそれ読給らとて  
れは親しとて友をひらとて給の熱まらとて父の奉  
以給へまら給六十費文孫ま清よあへらとて侍衆の  
宮長よあつらとて料よあへらとて父らとてらりて  
後任給よ給しとて神樂と奉らとて料らとてらりて  
つ錢といふも外の用とてらとて父の意とてらり  
おせらとてらとてらとて父らとてあへらとていせら個  
あつらとてあへらとてらとて父の用らとてらとて胡あ

孝義録

二





牌前に致れし忌日小八終日禱ふべく牌前に  
置り墓詣の糸池より出りしやあゝ家の内も各これ  
と云ふらひしてその子八十郎といへるも又父の形ひよ  
年ららるるしこの室永六平二月領らるる福百  
石とあつて入る番士とるせり

孝行者年七

年七の伊具初毛置村乃百姓あり生れつゝ篤実よ  
しとくと又のあつて父母の孝養懈ら奉りて娘  
二人もつたまは婿と擇とて家つせりよと親族ありと  
はじりよもしそれものゝ親あるにありあつても

あつていゝあつらんらん志をせは才六之郎に家継し  
め二女と兄弟にありせぬ家養くして妻子ハ粟稗  
をくらふといへるも父母よの重のものも在れり  
む父年養つ子よ音曲と好とつて時々に盲人の言  
曲とつてつるものををじりて心と樂しまへり感  
懐の甚多ふといわれはつとと父よつけ見事とに  
技をゆとして父の例とつるれと事つてつて付ひ  
いふのつるをさつていふまへつては兄弟の衣とぬと父  
の子とつてつとあつてつたひ初るの享保四年の  
去父の病よぬける時ハ見事つるあつてよ技をま





片時も例のあらざる事あり長き病の事あれは  
見し事なく世に才たれし者もよあはれに兄は田舎  
より出立てもそのいぢめは家より入ると何れも好光  
るものハ金銭乃貴と云ふ事と成り妻子の衣服と云  
ふ事と云ふ事又ハ糸のりもも金銀を袖に  
めこころ事ある事と云ふ事此れ六月の事なり  
くしては世に母の事あれは妻の田畑の業と云ふに  
めと母の事と云ふ事又云ふ事母の事と云ふ事  
に姑乃養と云ふ事水と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
ことあり若し病ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事

笑ひ慰めくその怒と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
と罵る事ありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
小同六年に母六と即病ありて死ありしが悲し  
る母の泣かありと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
是婦れもの音病乃と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
是妻と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
事も者る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
くことと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
もわと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

孝義録卷之五

四





より多く持高七石八斗は貫と先く程その外も  
翁の年孔未進又より一壺を金とくくわくを  
母は為小茶金とある一六回十年六月願より  
翁年とくくくくくくくくくくくくくくくくく  
めくくかん

孝行者久玄清

孝行者六郎七

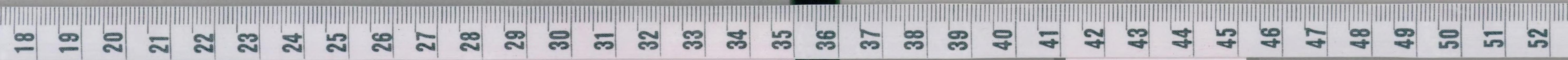
栗原郡中村乃肝養後よみ身七といふも乃あり  
乃と祖父より曰代百二十歳ありけ後を勤めり  
くく父久玄清も曰十一年とくくくくくくくく

年より其父徳右衛門につくして孝とくく徳右衛門  
年教ひ後進くく後ハ病を好と遠田郡三口とい  
へ七十町余も隔りくく不日といふ病と久玄清  
その妻とくもに風よとさ下病乃手にくけくで自  
ら飲食と調へくくめ馬に抱さのせく送り書よ  
ハ遠ひの馬とまきく海邊と女く抱さおろくそり  
或ハ病ゆく日ありて樂めくくをたれハ病目こ  
う病お多うくあかといひ慰め日く病の事うは  
さして人ものも勞くく不足の時もあまといふ  
くくもの事あく徳右衛門を妻へく後いふ乃



此際七にもの口からせき抱き投しめ病をよ  
 ねよの細き竹をくくるとしてまきくくみ  
 ぞしてその例よあらしめあしく家よある日に  
 の父の親しき友を中の子として誇り樂あひじ  
 業のく死せしめく殺す業の父を孝義のころ  
 こころのくあり久く懐くみ此際七もあし父の  
 のをくあらしく祖父の孝義をくくと父母よつ  
 へして孝るりくくくを懐くくの中風とを起す  
 らよのせぬを此際七と書くくみ抱きくく  
 てらじ事あり業の本より中風と治すくく

つきに用る調度などくくくの本とくくく  
 中までおよび出る時と心そのくくくくく  
 ありとくくくく父のあもくくくくく  
 て宅地をめぐり食糧も人のきくくくく  
 くくくくくくくくくくくくくくくく  
 せぬ母の多病ゆして父より先よりせしめ  
 ありく時雷を汝とれ地をくくくくく  
 ありく例よありて母乃くくくくく  
 一廻り荒湯の浴せしめ此際七とつくく  
 け或ハ抱きおひきくくくくくくくく





小値ひゆこして病乃ちまある時之社佛寺のこ  
 ちまうしとせされゆるも物珍りしとさうらに  
 ありて事ありのさくを傷み病七父子とも小孝  
 乃道とせせらるのさありとつとじら夜のゆふおそ  
 はんをそく殺十年北野江戸の運送とる米と司  
 事ありしに露りゆのも私多く自ら土庫を  
 多く米とつと長屋をつりて米の出入を改じつ不  
 ちと那村の役人乃助とせせりしはけりし頃にも  
 たりたりと久き遠死して後之郎七と名殺しあり  
 しか父の志とらまを継て長屋の宿とつとつとつと  
 へく米穀を買いとるよもこの利をじとる事あるを

是ハを乃つとつとつとる事とくあり運送乃殺も  
 多くありしゆとこの家居も又廣くととるし流  
 ハ領主乃先祖遊獵とるゆ時その家子やとるし  
 事ありしとそのやとる所破道傾と後作り  
 ありしと事ありしと君のさけりしとありし  
 取ふ道いしとそのさ材木とさるに用ひと  
 ありしとかん村人其の貢よ清道ハ父子ともに貸した  
 けりしと利とらる事あり秋よとつとつと僕り  
 見とつとめく契しと者よハゆら奉とるゆしとる





とおぼはひあへりてそをけ申村といへり  
 こらよ稻田のころる事多し左よ一村あはせ  
 百と軒ありといへりも衣食よたまる者あり千餘  
 人よ過よ申よも産業つとてとてとてよ離教も  
 といへりしと正徳乃はうり享保七奉になつめ申を  
 六郎七といへりけとゆへもといへり恒つといへり  
 六人ありといへり又此村の中に用水のうりあり  
 第一ありて早れ時ハ昔といへり六郎七といへり  
 霧害は地といへり雨より六十字や上の山とありぬ  
 水のを算し一か九千六百石乃田地早損乃意と免

是公私ともに其利を好く村の中より作事あ  
 れハ農業乃暇とてくふへり此百姓よまありし  
 ともくいへりといへり一か領主とも頼はた民もま  
 悦つたこのころに一町田六子坪の廣地ありしと  
 領主より土民よ命して雑米を植させしよお島を  
 一人の力とふくころよお村と粟とをくら入奉つて  
 植とありし一か桔枝よころるまてあへりて己と利と  
 る奉まて一村乃ものをとけり又領主の志め  
 並方畠地場とありし一か一町もつてその職とつて  
 めくころる事ありし一か一町保千一奉同村

孝義録卷十五





の民百四十八人組段十人その外の者くらくくら  
乃若れと傳へむこのいやくを領主より是と賞し  
て同十二月は持主乃ら四十九石七斗一升九兩長  
くその貢とありせしとぞ

忠義者勤助

勤助ハ粟原郡高清水のもれより元禄七年より仙  
臺の條下國分町松種屋佐左衛門もとも十年乃季  
とさういふくつへこのそれを公のまめやうなるを賞  
しし年季とくけり時分代金とあたらせりその  
後佐左衛門の家崩へしとさうして室永元季同く

城下大町ある若田屋といふものもあつたといふは  
金とけくもとの主人の匠とそれを賞ししと  
佐左衛門同四年乃季は夫よりあひて家財を賞して  
のりりくさひしと佐左衛門夫婦よりひよ長子  
乃佐左衛門といふものもあつたといふは次男  
佐と傳へしとそれを賞ししと父の時よりれ  
借財もくせはさういふものもあつたといふは  
佐と傳へしとそれを賞ししと七年のやと季若  
しと勤しとさういふものもあつたといふは  
て同町よりあるものもあつたといふは





坊々其男の出来を伺ひてつゝ人々の程も候と尋  
 りて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 の出来もつゝ人々の程に希き事と尋ねてその男  
 して其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 候事とて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 たりその事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 子儀といふ事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 とくも申す事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 候事とて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 て宅地とも賣事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男

事とて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 又其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 及はふ事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 へんと其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 子と親族の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 ら家不勤助とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 町のもつゝ其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 家の事とて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 ぶ事とて其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男  
 とら其の事とて金十兩の程に希き事と尋ねてその男









此その方の名子地といふ所より小敷つゝりて任せ  
 八岳助二十歳乃時同村乃民孫七よ仕へ正徳六年  
 乙ついでとてなむと一才とありあひて後い一年と  
 乃を云してそれ給金を泊く主人父子成書ひぬ  
 業保二年のま今の主人孫七の書巻とありもこの  
 主人乃妻子ともふひくこと申せ清き清といへる紙  
 漉のもろ小孫助とやといへりめくその業と枝をけ  
 り是は岳助の力とつてせらふより孫七の家のつら  
 るものともなうあゝ勤くは岳助と云くめり  
 つゝいふいふあよそ申すこと此主人の家族申す

孝い堂とてそとこころ孫助の子新助のゆゑいと  
 けあつり一と岳助の耕作乃所よ付ひゆき書  
 小あひくの一車四年ふしてやうく年十丁よ  
 ありし一の所これ使ふと承りて孫七よりも本綿  
 かとあつり一の所岳助いりもしてその方の結合  
 をたぐひ孫助の業を盡く田畑とも清途一帯ひ  
 百姓の教よいらしめんとの不ことおれはあつりも  
 書子にたひ孫七もよとめとてえり父乃付り  
 仕へ一家を建ひ病牙乃孫助とえ放らしつゝか  
 つ二親の墓も孫助もこれ持高の地よあはれ





くに於てハ墓詣もあつてもとけ村よ生れく  
ものふせハ世村の中と離れよともあつて人を助ん  
の不便事ありとてつげつと孫助ハ父母病て死  
せし時もその費とてしすけ石碑とて寺僧よ布  
施とてひその或ハ孫助ともふ頼りたりに於て  
あまハ孫助ハ病の身めく重く頼りて負ふ若く  
めらとてくこり背あふ頼りて重孫助ハ重く  
とてしすけとて是も重く夜とも孫助夫婦は  
さして若せ孫助つとよあつて張深のもつと  
らむつとくつといとてえつとよの菓子か懐り

て孫助よあつてそのお人の交も厚く村長と  
も教ひく實義あり事くれおけとて享保十  
一年六月領主より孫助よ田畑二ヶ石とあつて孫  
助よ母をんやとて若りめつとて

孝行者年々

年々其ハ宮城郡國分上谷村古内村野村とて  
之村の所業あり父と久玄湯とて若て後その  
妻とともハ中風と病て死居もつとて年とて  
小年々其力をつて若病し自ら父母の病を  
あうけ念と加つてそのいぬちとてふと



志しつゝ、削りゆきとまをむき、腰を抱き、不用  
ありて出る時、公私ともくその事をつげぬ事  
は、あつとあつと、さうさうと、父母乃かよ出  
比、それ居るよ、行とあつと出入を苦くとも  
も、さうり、おまゝ、これとも父母乃をまゝと、  
事、あつ、勤る、後、もの、成、用、あつ、つ、く、と、か、  
この村人も、まゝ、海、腹、せり、さう、あつ、く、まゝ、く、  
夏、の、紀、の、く、く、と、耕、作、乃、業、と、つ、も、た、あ、れ、  
己、の、ま、ま、と、申、よ、い、さ、う、貯、入、並、く、ま、の、と、出、  
て、救、ひ、病、を、若、よ、の、味、味、あ、つ、く、魚、か、あ、つ、  
事、敷、を、志、ら、ば、村、乃、申、れ、ま、の、公、事、乃、く、く、己、の、家、の、  
来、ら、事、あ、ま、い、ま、ま、い、時、ハ、焚、火、乃、あ、つ、ら、せ、飲、食、  
と、あ、つ、く、く、松、明、と、作、り、金、敷、乃、入、く、あ、つ、もの、に、  
と、れ、り、け、後、と、つ、と、び、ら、事、甲、十、二、年、病、に、つ、り、て、退、  
ん、と、す、る、時、村、人、乃、ま、ま、い、と、情、く、く、その、あ、つ、と、  
代、ら、し、めん、事、と、し、ひ、く、よ、り、其、子、又、所、業、後、と、  
たり、祖、父、の、名、乃、か、つ、く、久、ま、来、し、つ、久、ま、清、く、  
ひ、も、又、年、左、業、乃、と、ら、と、と、く、く、母、の、病、乃、く、く、  
余、来、乃、あ、つ、い、さ、う、く、と、妹、乃、く、く、い、く、く、  
あ、つ、つ、り、て、女、抱、く、村、の、う、ら、の、もの、と、ま、め、く、と、あ、

事敷を志らば村乃申れまの公事乃くく己の家  
来ら事あまいままい時ハ焚火乃あつらせ飲食  
とあつくく松明と作り金敷乃入くあつものに  
とれりけ後とつとびら事甲十二年病につりて退  
んとする時村人乃ままいと情くくそのあつと  
代らしめん事としひくより其子又所業後と  
たり祖父の名乃かつく久ま来しつ久ま清く  
ひも又年左業乃とらととくく母の病乃くく  
余来乃あついさうくと妹乃くくいくく  
あつつりて女抱く村のうらのものともめくとあ





妹ハ子よの女の例よありて胡夕乃食物その好よ  
 中のせさる事なく長病乃事よ進ハ日暮し母  
 ありと志らく産を移し又ハ物ハをせ  
 娘をハ目よありて親とありてをさし  
 外よも嫁とてと母のこハをさるるに悲ひ  
 二十とくちかくありとある祖父久玄清乃  
 時よりして世々孝行乃さるありしハ享保十  
 年正月領主より褒美して今ハ久玄清と妹よ  
 金あり母の事志あり

忠義者傳説

傳説ハ伊具那大花村の百姓十玄清ハ下人あり初く  
 しては家より一十玄清ハ持高子と名あり  
 の地もらりの瘠云よく田畑の物とも熟せし  
 室永七奉の公納よあやと傳説とら財をけ  
 る穀物と賣しつあありの金成ゆこれと傳  
 正徳と奉十玄清の家こそりて病よ母と妹と  
 多ひいふく貧若とと移しよ十玄清腰痛の病に  
 て農業もさるて又も公納よ滞りしと傳説  
 主の人まよしつその金とぬく主人とあり



享保二年十月三日妻服と病し付も又八日迄もして  
 らくその費とたんとけ醫業をすめくつるよといえ  
 む同日来け三日病まき又も公納の滞るると傳  
 義人よつてく二年の事とせりあめの金を得く  
 おきとすけし仕物ものも嬉しく二年あし  
 て喉とせしそのつえし男も休日又ハ費多くし  
 せしとく十日病の事すうあしその十日三日迄  
 ころ母をもころ同日九年に申風とて建つて新  
 付しと酒肴とのと好くし傳義山よ入つて出  
 いもころとあり松枯末かこちてむさし酒肴と  
 とめてしむ付ししてハ背あひ出してふくのたき  
 つり耕作をとりえめくし其を願ふしむ外  
 ころ孫らと物あはれはあても色とりて家つとく  
 せり同奉り三日傳義よしつひしてむさし  
 しとてハ家家ころあしむもお不え孫はいつても  
 出りて身とすしむより妻ハ多病ありし事とに  
 も出しつてハ其を母乃事いしと聞ん事の人と  
 くもせんしあしつらあけくし傳義も事と  
 のひと同村乃行費取乃もよめさしつめと  
 里此事かつてし我身いつちもはしつて人





支母を養ふとも養ふへといひ母を養ふは行末役の  
 ものらして十三年病乃身あつても高はかりぬる  
 くれ丸森町乃如丸森のよつてせ老母と書りて  
 親族より援助せしめ借巻のこりやうりて田畑  
 乃事とつてあ年貢納役からあつて老母と書りて  
 せつけあつてあつて給金より主人とつてせ  
 もあつてあつてと細くふあつてせつてあつて  
 言の如くあつて百姓の家もつてあつてあつて  
 せつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 の思ふと書りてあつて

兄弟睦者云平次

云平次の粟原郡と通石越村の百姓八つ助の叔父あつて  
 里と云八つ助とつて二人の兄ありけり云八つ助あつて  
 けり云平次あつて二人の兄ありけり云八つ助あつて  
 して八つ助の叔父あつてあつてあつてあつてあつて  
 せつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 起つてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 してあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 の叔父あつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 せつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 してあつてあつてあつてあつてあつてあつて









敵の後見して世に知らんもめやとてうらなれ  
 ことごとく助の敵とてとまらん事とのこといひて  
 多しも出やうはへ助の敵とてとまらん事とのこといひて  
 事あまのいひてとまらん事とのこといひて  
 らぬやうよ出てとまらん事とのこといひて  
 是の事係十二年六月領主より獲りて金  
 さらせしとひん

孝行者と慈石巻

慈石巻の果系那との迫込色村の百姓あり生れ  
 つと篤實ありて父母の心よこころとてとまらん事とのこといひて  
 ちる事ありてとまらん事とのこといひて  
 一父の年若く目志を早うとてとまらん事とのこといひて  
 ての事ありとてとまらん事とのこといひて  
 もあひ助けとてとまらん事とのこといひて  
 飯食の定めもあつとてとまらん事とのこといひて  
 よあつとてとまらん事とのこといひて  
 とてとまらん事とのこといひて  
 とてとまらん事とのこといひて  
 の八指とてとまらん事とのこといひて  
 よとせらる病もたつとてとまらん事とのこといひて





志願の中にもつゝとるの父の為り一時親族は  
いハ隣里のともなりつらひて葬送乃事とせら  
れりいふ慈右衛門むらふ指よつらんこまを用  
意しけつと人のいふと向ふよぬ多しけりて  
それけり隙とて俄よを悔ふこゝ故よあらか  
しめまうそのといふの母よつふら事もあつた  
よ異ありと母ハ年八十ありて健よつ子よ麻を  
積と布と織て子孫の助とて或ハ賣て糸綿よ  
いふも一うきもあつた事ありふ慈右衛門よりそ  
是種の價せぬにふ慈右衛門もつらり妻をを

老しては母の事多し事いふあつた事  
老ての勞し事ありあひそといふにあらは  
年よりたせいとく宜く光陰を送るへ事いふ  
手業乃ありてこの世よりいふせんをといひる  
慈右衛門の食にふを用ひ麻と設け食を加  
へそれ事とて安らうといふ慈右衛門年老て  
も父母の事いふ家業の事いふ意らうといふの業にハ  
呉産魚の表と織り領主よさけしてその價を  
今の子孫かかといふいふといふよ父母の  
世よいゆせらる後ハ我カをりて老へともも老





るる人のあつらん後よの汝らもあひをうくこと  
 してこの世をいさむるにあらんてはば忠孝の人のあ  
 つく朝重の日の組路乃家よゆきて礼をせうく  
 けの後に事あり必つてしてさう奉れ貢に  
 もちぬひよ人より先して納め取ぬれ  
 志らんと田畑ももたらされそふり禮作して  
 秋の美の里あり一々事ともその事つひに  
 田まうりふとつまきめくむ事ありても多  
 辞してとくあつてさうく他よ出る時ハ組路の  
 初に公用の者として出るとそ夏の田植

かり又ハその奉の納物ことく納進ハ酒をも  
 け肝養よとめえ奉のうらみらに妻子と  
 事らぬ君恩にあつる事ありその故つと  
 かの村長よとつてのまらんとつよハ肝養も  
 び事ありその心よのせその享保十三年十二月  
 養集そとつとあつてと忠孝のつとつと終つ

貞孝者ゆき

ゆきハ江刺野々街村乃百姓孫作の妻あり  
 よつとく睦つてつよの其しよとつと享保  
 支病て冬の一時下女に二人の男子あり見ハ文也序









時父と共し小迫村乃百姓利助とて亦其れは親父と  
 かきしるよき事いふて人となりり利助とて亦其れは  
 るものよきと共其れと後見して亦やとてその  
 親族のまのよりの熱き所初とていふる先のま乃  
 子ふれ人取はんとて口業の時より人取よ出  
 とハ熱き所乃其れ乃人数の列よ加りその利助も  
 田畑の事とていひきらとも米金の出納よその  
 ていふる行熱き所乃祖母の事いひきらとも其れ  
 初いひてハ祖母も又実子のとてハ親とてハ祖母  
 つ子ふ儉約とていふ其れ乃肉の夜食もとてその事  
 用る農業の事もいひてハ其れをいふていふ

ともそしき事いふ田畑よりいふる物乃其れは利助  
 よもいふてハ祖母も又実子のとてハ親とてハ祖母  
 親の目よハ利助とてハ酒を飲めて祖母よとてい  
 ちと利助は母とていふてともハ樂とていふよ利助  
 ち事と稱していふるこり暑きつよとていふてい  
 ちの酒とていふていふていふていふていふてい  
 らげ事今ハ利助の篤実あるふとていふていふて  
 人とありて後も家内ハ事とていふて利助よそのせ  
 事こと乃親のこりていふていふて利助ハ後見してのら

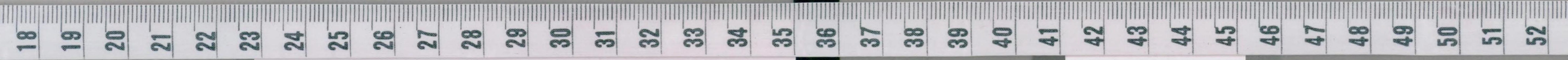




男一人生母門を棄てての惣を所よの異父の兄  
 弟おれとてつて睦しく利助もあつて惣を所よん  
 よあつてつて別よあつてつてつてつてつてつて  
 惣を所よつてつてつてつてつてつてつてつて  
 まいよつてつてつてつてつてつてつてつて  
 人よつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 の家よつてつてつてつてつてつてつてつて  
 つてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 乃ちもあつてつてつてつてつてつてつてつて  
 もつてつてつてつてつてつてつてつてつて

ふつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 不熟の奉ありても貢納乃ちつてつてつてつて  
 しく推移する所の百姓の風俗を厚くし私とて  
 ともつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 へつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
 検断村長を誨へつてつてつてつてつてつて  
 利助と惣を所よの全とあつてつてつてつて  
 孝行者孫七

孫七、遠田郡葉村の百姓孫助の長子あり篤実な  
 るものありつて村乃ち交あつて奉貢納をとく事あり





東保十一年妻子をさへして孫助もふふありつゝのふ  
 孫助と父とのこととして孝を忘る事あり孫助の六年  
 このころ中風をもち言徳のようならぬ新病のまゝに  
 らぬを猶夕ふんとつゞけ世りする業も深物ををせ  
 してこのころ其業志けし時もある父の外も出でた  
 とつゞけ其業をすくともあひ出るの善父病にあり  
 て年中とつゞけもつゞけは是れと最志く衣履を  
 とめしころ時をさへく病にありその日の夜とさ  
 ころをせ引起しつゞけ大とつゞけあつゞけ夜裳ぬれ  
 もよう乾しつゞけ時をさへくその日の暑とさ  
 ころを深とつゞけもあつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 ころつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 好くつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 ひつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 やつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 ひつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 事あり孫の迹をいさへつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 ふつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 ころつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ  
 嫁り居る孫助の娘とつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけつゞけ











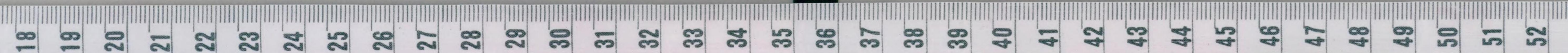


長き湯ハ京保十四年に病く死し姑一人のいふく  
 孝義をいつせしこれもふ年若かり申風の病  
 よし言語もつらかりて子も時におもひく  
 薬用をつつ一年をいやく愈しかそのうち又  
 おふし朝夕乃飲食茶煙菓の類よいつらあはく  
 長き湯の妻例よありてふまをすく姑も  
 此より桃李の類を好きてを補乃肉も多く極  
 といふをれとこのあはれ花さるあよいつも下陰  
 よ筵しとして姑と肩よ引りけけい新茶煙菓  
 と推すこのあはれ杖にいつりて菓とのら時ハ

例のよくあはれゆき快く樂しあはれ病つ  
 してハ朝夕よあはれあはれとあはれとあはれと  
 あり戸あはれあはれといふく冷てるあはれ  
 いらく湯といふく洗ひ履免あはれもあはれ  
 よいあはれあはれのあはれ巨燧して志のせ又暑  
 さい時ハあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 いらく湯の娘よあはれあはれあはれあはれあはれ  
 ありあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ  
 ら姑乃あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

孝義録卷十五

三十一













よきなり為されしつらゆきよ為しつらよの徳のりく  
 して所く養ひしけしは大小二十六におおく病お  
 ひしつらよの男れつらよく徳いつらつらよのけ  
 たりぬこれ徳は増田町乃方おとく男女六人養ひせ  
 中よいつらよのおいでして死しつらよもありしと云ふ  
 一の妻ありしつらよの徳せしはと云ふ云ふ命はと云ふに  
 危るしと云ふ女の才よ稀ある事せしむ今も孝人乃  
 切らつらよのれつらよと云ふ同さ九月領主つらよ金を  
 あつらよのかの妻と云ふしと云ふ

孝行者若くは

若くは仙臺の城下新傳馬町乃りておとく  
 其徳ありしおとくものつらよもつらよ持高もあつらよ  
 して者おとくは九歳のつらよ徳の小見と云ふ  
 つらよと云ふ親よ孝ある事しつらよはつらよも人つら  
 徳ある孫味ありしその男はつらよ父母のつらよと云ふ  
 今の家つらよめつらよつらよつらよつらよ保十八年のつ  
 らより父つらよ忠つらよ中風と云ふつらよつらよつらよ  
 つらよつらよつらよれ業を助つらよつらよつらよつらよつらよ  
 知つらよつらよつらよの徳はつらよつらよつらよつらよつらよ  
 つらよつらよつらよつらよつらよつらよつらよつらよつらよ









いくともうくしてきふよ出し其給金よく富賃  
 まてハ飯料の滞りとも拂ひ懸き四月よ母乃福あり  
 くありとうせぬ朝夕乃花水暖ゆる事も福んさ  
 らよ勤あう父乃好ある物賣しし中よくともく  
 うらひ涼衣ももあうし出くもあある事志んく  
 ありとも福ありてハ片付もあうらよあ福と父乃  
 ともあうたさうあうりあともああ後世の長壽もらり  
 ありく事付いと後よハ窮困乃ありあ富つる  
 奥よとうのうり拂い父の用子使つてもようらうら  
 ありて馬の留業留あて使りいさう乃養よしく

父を喜入りもさうくさう用ありて使入る時ハ隣  
 者よくうくくといふと並いそいあうて戸はうり  
 くあうりく事うけく父の心成あうあせぬさて  
 もともあう用の事ともいさうせ氣あともいふ  
 ぶあうてさううらういさういさういさうく氣あとも  
 らうといの中もあういさういさういさうあう  
 着る病ハ父のくひ乃せくあ成ハああともうて  
 志のいさういさういさういさういさうあう  
 ようも福ハあうらう事あ一日とさうくハ為人  
 おも奥氣つさうあうりああうものハあああ



ぬやうなるやうに盡すにこゝもいふにけしきも父  
 のまじと懐くし或はきと抱きしをさるといふにけしきも  
 のも常とていふにけしきも事あり食とすにけしきも  
 中風の事ありに流流とて挽の中にいふにけしきも  
 挽のまじのいふにけしきもれらうにけしきもいふにけしきも  
 父の食のまじにけしきも事と孫の歯のまじにけしきも  
 まじにけしきもいふにけしきもいふにけしきも父母のまじ  
 病もあはぬにけしきも要らせん事とていふ  
 くすにけしきもいふにけしきも中といふにけしきも父母のまじにけしきも  
 のもあはぬにけしきもいふにけしきも孝とせしにけしきも

忠義者 仁菴

仁菴ハ伊具郡丸森村の百姓次方熊のり名子彦八身  
 の孫六の信代の下人なり孫六の父茂平次り時り  
 二十二年とてころり多し勤しにけしきも享保六年四月  
 順をくらせ登家のうられ小家よす由せらるに仁菴  
 平次よつらにけしきも休日よにけしきも田畑を信作に  
 命もすにけしきも主人の順とていふにけしきも





















乃孫田所よりうらうらう襟ぎたり引係しこれと親  
 族彌々清るもの光りより照指ともこころい  
 ひと女乃身の志もこころのもたらしかこころい  
 ころこころいこころい願まのり金あこころい  
 八月の事あり

孝行者久々壘

久々壘の右取那北方高柳村乃百姓と右壘の身か  
 ひと父の久々清とこころい年久々こころい疝氣とこころい母の  
 血乃還よこころい母こころい父の農家とこころいこころい壘  
 ひとよこころい十と歳あるとせんとこころいこころい久々清の妻

乃身六と歳とと妻をこころいて家と譲まのりこれ久々  
 走ゆと久々壘とハ別家よあつを六と歳とこころい  
 飲食を裕りし事養ひまのりもこころい農家もこころい  
 かまれとけ父母乃養ひとハ初まれと久々壘よあつ  
 せこころい正意り形々孝養し一と歳とこころいよこころい  
 ひととつこころい父十年とこころいありて病とこころいせぬ母  
 ひとこころい血痛をこころい父の別とこころいひこころい  
 ひとこころい久々壘もこころい事こころいひのこころい  
 ひとこころいこころい事こころいぬ抱こころい母の病の  
 治こころいこころい愛とこころい村中ハ徳守も賀乃社

孝義録

三十一













136  
50  
197

しくあまの後の業祿んはよとらひおほふ子乃  
別るらやしく念佛して母の後世成そとのとける  
か乃母病つきてうりよとて十七年乃母病を  
うりよとて他人もまわりわらうりよとて  
延享二年十月領主ふとてうりよとて  
して貴せり

孝義録卷之十五



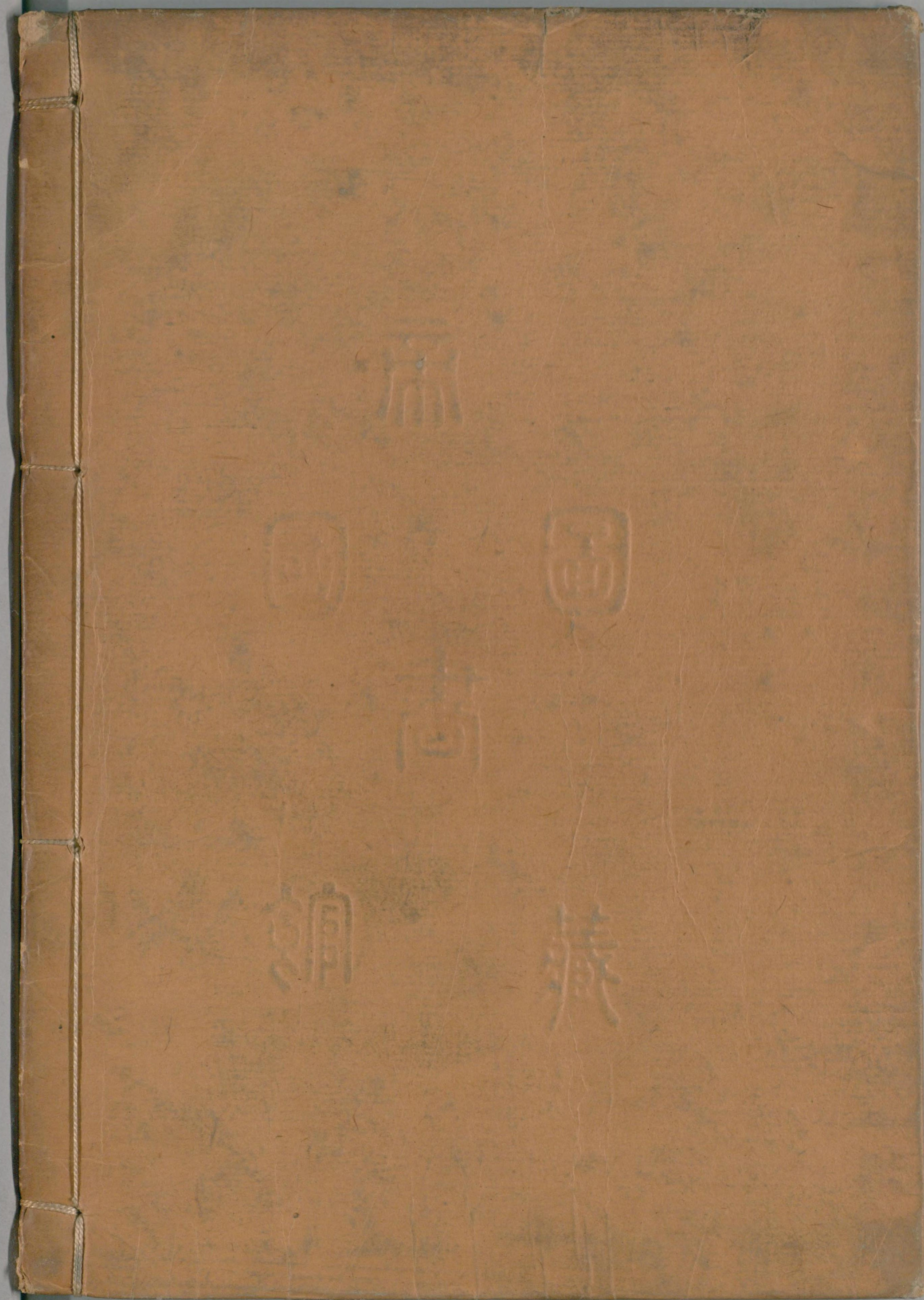
136  
50  
197



国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『孝義録』 請求記号 136-197

ガラス使用